

2013年度立命館校友会 東日本大震災復興支援事業 東北応援ツアー レポート  
C 福島県相馬コース

1984年 経済学部卒  
青山暁

昨年の岩手コースに引き続き、2年連続で今年も福島県相馬コースに参加することが出来ました。改めてこの様な素晴らしい企画を継続して実行して頂ける立命館大学校友会事務局の皆様及び復興支援企画委員の皆様、お忙しい中ご同行頂いた桑原会長はじめ福島県校友会の皆様様に感謝し、厚く御礼申し上げます。

さて、私個人にとっては今回は4回目の東北被災地訪問であり、福島県も震災の5ヶ月後に福島市と須賀川市に入って以来の訪問となりました。当時はまだ湾岸部には行くすべもなく市街地の地震被害の様子が阪神大震災によく似ていると感じておりました。

今回、相馬の湾岸部へ初めて案内して頂き、現状をしっかりと目にすることが出来ました。一歩ずつは進んでます。でもとにかくまだまだです。

現状視察も大事ですが、昨年の岩手コースの時と同じく、何より重要だったのは地元校友会の皆さんから生の声、生の体験談を聞いたことです。

今回も、バス車中での山林や畑の汚染の話、ご自宅の除染の話、そして除染した土を自宅で保管しているという衝撃の事実。放射能のことについて、当たり前のように話されるベクレルやシーベルトの単位の詳しいこと。エリアによって違う感情。そのどれもがリアルに心に響きました。

今回のこのツアーで改めて確信しました。私たちが知らないといけないのは一般的な真実ではない！寄り添うべき方々の現状を知り、そこにどうお手伝い出来るかだということ。

こうしてご縁の出来た福島県校友会の皆さんをはじめとし何か関わりのある皆さんのために、どんなに細くても、長く長くお手伝いしていきたい、寄り添っていきたい。

それでいいじゃないか、それで充分じゃないか。一般的な「正義」を振りかざしてたって何も解決はしないんだということを。

私は現在、地元芦屋市の市議会議員です。その芦屋市の震災支援カウンターパート市である石巻市を今後も支援し続ける。

私は親友の実家のある福島県を今後も支援し続ける。

私は全ての被災された東日本の立命館大学校友の皆さんを今後も支援し続ける。

と改めて強く決意した次第です。

以上